

Andy & Williams Botanic Garden

ヘッドガーデナーの 庭仕事 ダイアリー



vol.19

同じ花を群生させて ナチュラルで美しいシーンを 春の庭に加えよう



おおた いさむ
太田 勲

東京都生まれ。玉川大学農学部にて植物形態分類学を専攻。卒業後、都内の植木会社に勤務。その後、株式会社ジョイフル本田に入社し、ガーデンセンターに勤務。2003年より「アンディ&ウィリアムス ボタニックガーデン」のガーデナーに。2016年3月よりヘッドガーデナーを務める。

ナチュラルに花が咲き乱れる それもイングリッシュガーデン

今年も半年を過ぎましたが、早くも来春の庭づくりについて紹介したいと思います。というのも、チューリップやスイセンなどの秋植え春咲き球根の植え付けは10〜11月です。タネから育てる草花については9〜10月がタネまきの適期となるため、来春はどんな庭にしようか早めにプランを考え、植物選びをしておく必要があるのです。秋植え球根については今後の号で紹介するとして、今回は新たな景色を春の庭に加える提案をしたいと思います。

「アンディ&ウィリアムス ボタニックガーデン」はイギリスのカントリーハウスに付随する伝統的な庭を再現しています。春のチューリップや初夏のバラなどの華やかな景色が目まぐるしく変わりますが、同時期にほかに美しい景色が展開されています。例えばバラの季節のもう一つの見どころは、色鮮やかなポピーがあふれ咲くシーン。また、木陰をのぞけばヒアシンソイデスが地面をブルーに染めていたり、自然に花が群れ咲くシーンこそ、イングリッシュガーデンならではの美しさではないかと考えます。

1株、2株ではあまり目立たないけれど、数多くの株、球根をまとめて植えて群生させることで、ナチュラルでいて心に訴えるような景色を生み出すことができるのです。小さな庭でも木の下の一部や、家周りのスペースなどでそんな群生を実現することは可能です。一般のご家庭の庭ではなかなか見ることができない群生の景色、ぜひ来春は取り入れて、新たな楽しみを増やしてみたいかがでしょう。

並木道を彩るポピーは 毎年タネから咲かせる

「A&Wボタニックガーデン」には「ダヴウォークウェイ」と呼ばれるニセアカシアの並木道がありますが、5月の中ごろにはその両脇をポピーが華やかに彩ります。これは秋にタネをまいたもの。ポット苗をきちんと配置した場合とは異なる、自然な花色の交じり具合や草丈の微妙な不揃い具合が、よりナチュラルさを感じさせてくれます。じつはこの並木道沿いには宿根草を植えていたのですが、ニセアカシアがどんどん生長し、日当たり具合が悪くなりうまく育たなくなってしまうました。そこで、

まだ葉が小さく日照がある初夏に華やかなシーンをつくらうと、ポピーのタネまきを始めました。同時期に見頃のポリウム感のあるバラとはまた異なる、ふんわり軽やかで透明感ある花色のポピーもお客様に大好評です。もう少し早い時期から木陰になつてしまう場所なら、フロックスディバリカタもおすすめ。草丈が低く、半日陰でもよく花を咲かせてくれるので、美しいブルー系や白の小花が地面を明るく、愛らしく彩ってくれます。

もう一つ、群植におすすめしたいのが、植えっ放しでも数年経って花が楽しめる秋植え球根です。イギリスでは初夏の木陰をブルーに染める、イングリッシュブルーベル（ヒアシンソイデス ノンスクリップタ）の景色が有名ですが、これも1〜2球の球根を植えただけではあまり花が目立ちません。30球程度をまとめて植えることで、ナチュラルな群生の景色が生み出せます。日本ではあまり注目されませんが、カマシアの繊細な花姿も非常に魅力的です。この花の美しさは残念ながら写真では伝わりにくいで、ぜひ一度、庭で咲かせていただきたいです。ローメンテナンスで魅力的な景色が楽しめますよ。

群生させると 花色がより映えて きれい！

初夏にポピーが咲いた後の並木道は、夏から秋まで斑入りヤブラン（ヤブラン バリエガータ）の淡紫色の花が涼しげに彩る。ヤブランは木陰でもよく咲く丈夫な性質で、家周りの植栽にもよく利用されるが、群生させると花色がよく目立ち、庭に美しい景色をもたらしてくれる。斑入り葉の品種なら明るく軽やかな印象になる。



Colorful Poppy

色鮮やかなポピーの花咲く庭

ニセアカシアの並木道「ダヴウオークウェイ」の両側に咲き乱れるポピーは、初夏の庭の見どころの一つ。群植させることで、草原のようなナチュラルな景色を生み出してくれる。ニセアカシアの葉が茂って木陰になる前にだけ楽しめる限定的風景。

ポピー

■ケシ科の一年草

「ヒナゲシ」^{くびじんそう}「虞美人草」とも呼ばれ薄い和紙のような花弁が特徴。流通しているほとんどが「シャーレーポピー」と呼ばれるイギリスで選抜が繰り返された品種。タネまきは9～10月が適期だが、その時期は周囲にまだ宿根草が残っていることが多く、それを片づけた後の11月上旬くらいにまいてもこの庭ではちゃんと育つ。乾燥に弱いので、タネまき後にたっぷり水やりし、乾燥しやすい場所なら不織布などをかけておくとよい。花期4～6月。草丈50～80cm。発芽温度は15～20℃。



かわいらしいピンク色など、花色ミックスのタネには魅力的な中間色も含まれている。



赤系の選抜種。ポピーは花がふんわりと軽やかなので、赤花も重い印象にならず、遠目からでもよく目立って庭のアクセントになる。

カリフォルニアポピー

■ケシ科の一年草

「ハナビシソウ」の和名でも知られるカリフォルニアポピーは、ポピーより小さく楚々とした印象で愛らしい。野生種の花色はオレンジ色だが、園芸種には赤やピンク、白もある。寒さに強く丈夫な性質なので、タネからの栽培も容易にできる。花期4～6月。草丈20～40cm。発芽適温は約15℃。

